

京都市の文化観光振興計画について

～観光とは人生観 世界観～

京都市長 門川 大作

2016年12月15日

①	ランク外	⇒	9～1位	①「Travel+Leisure 誌」「コンデ・ナスト・トラベ ラー誌」世界観光人気 都市ランキング
②	30%	⇒	90%超	②屋外広告物の 適正化率 (28,000もの建物の看板か ら撤去・是正)
③	82万トン※ (平成12年度)	⇒	44万トン	③ごみの量 (年間138億円のコスト減 「しまつのこころ条例」大 都市で最も少ないごみの量 他の政令市の4分の3)
④	16,000人	⇒	13,000人	④市職員数 (民間でできることは民間 に)
⑤	5,956億円※ (平成17年)	⇒	9,704億円	⑤観光消費額
⑥	93万人	⇒	316万人	⑥宿泊外国人客数
⑦	3.6倍※ (平成15年)	⇒	1.4倍	⑦観光客数の繁閑差
⑧	-4,600万円	⇒	+200万円	⑧地下鉄の1日当たり の赤字額、黒字額
⑨	28.3%※ (平成12年度)	⇒	21.3%	⑨自動車分担率

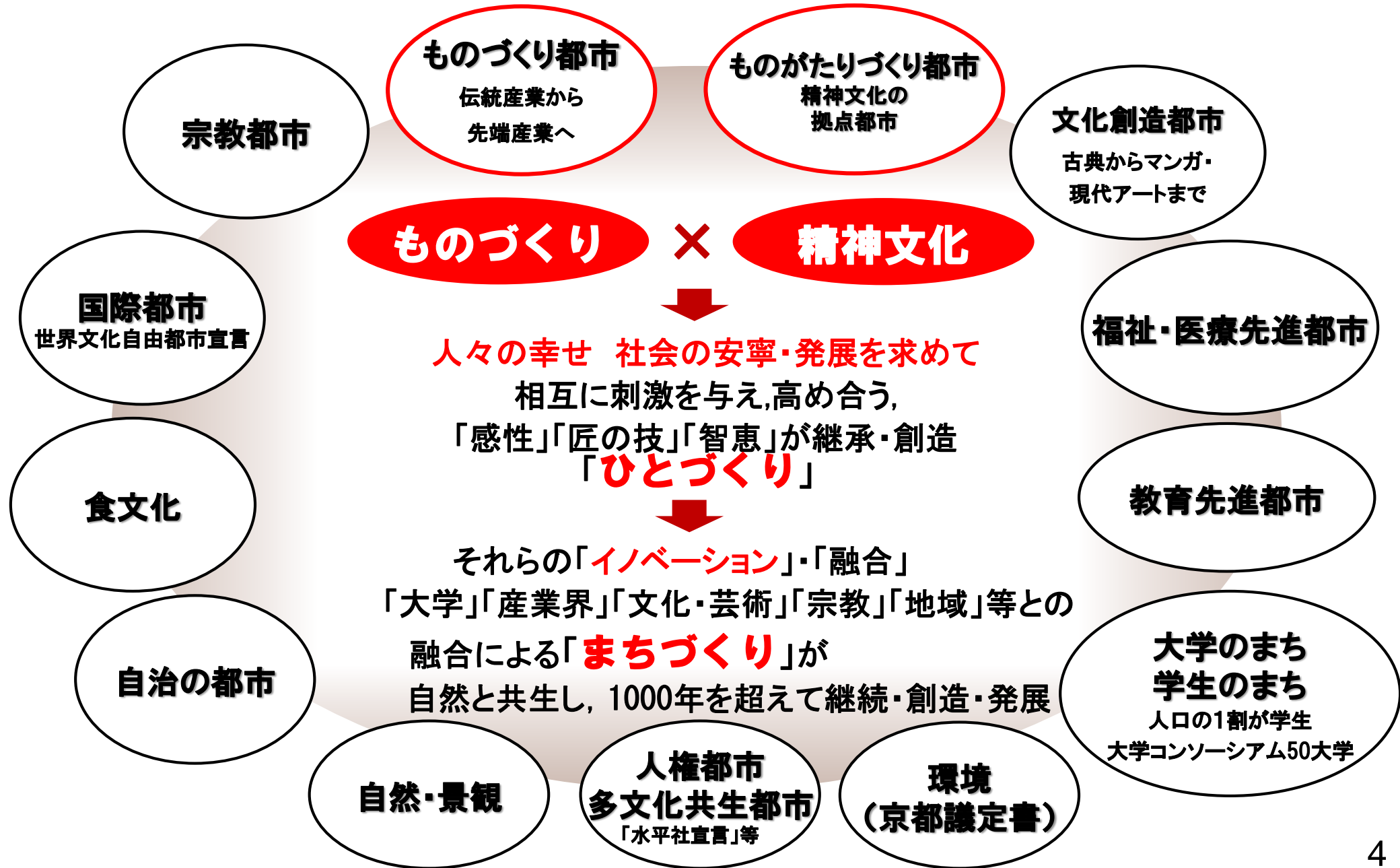
- ⑩ 41.7%※ ⇒ 6.3%
(平成6年) ⑩観光客のマイカーでの入洛割合
- ⑪ 7,896台 ⇒ 370台 ⑪放置自転車台数
- ⑫ 0.51 ⇒ 1.33 ⑫有効求人倍率
- ⑬ 236人 ⇒ 0人 ⑬保育所待機児童数
(人口100万人を超える都市で唯一の3年連続待機児童ゼロ)
- ⑭ 150件 ⇒ 1,200件 ⑭市職員改革提案・実践数
- ⑮ -3,600人 ⇒ +3,250人 ⑮京都市への転入出数
- ⑯ 2,664億円 ⇒ 2,530億円 ⑯市税収入額
(-134億円)

日本に、
京都があつて
よかつた。

そうだ
京都、
行こう。

京都御所 紫宸殿

撮影：三好和義



陶磁器

仏具
神具

酒

染物
織物

印刷

伝統産業

イノベーション

セラミック

精密機械
医療機械

創薬
バイオ

半導体
製造装置

コンデンサ
等

先端産業



KYOCERA



TakaRa



Nintendo®

OMRON
Sensing tomorrow™

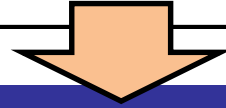
Wacoal

SHIMADZU
Excellence in Science

HORIBA
Explore the future

建都(794)のコンセプト

- 1 平安～平和 安心 安寧
- 2 世界に開かれた都市～城壁のない都



都市は、理想を必要とする。

世界文化自由都市宣言(1978)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035716.html>

京都市は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都
しかし、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。
広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける
永久に新しい文化都市でなければならない。

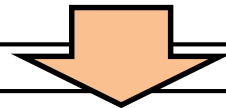
われわれは、京都を世界文化交流の中心にすべきである。

世界の人々が、国籍・民族・宗教・国の形の違いを超えて、
平和のうちに京都に自由に集い、新たな文化を創造

文化を基軸とし
た都市経営



都市格の向上



京都市基本構想(2001～2025)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000035717.html>

21世紀の京都のあるべき姿を示す京都のグランドビジョン

第1章は、「京都市民の生き方」

生き方とは… 文化

市民の6つの「得意わざ」（基本構想から）

めきき

本物を見抜く

たくみ

ものづくりの精緻な技巧

きわめ

何ごととも極限にまで研ぎ澄ますこと

こころみ

進取の精神

おもてなし

来訪者を温かく迎える心

しまつ

もったいない
「人と自然を大切に」

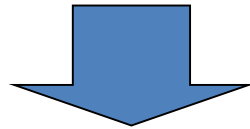
「京 都 創 生」

2003年スタート！

- 京都があらゆる努力をし、世界の宝・京都を守り創生する！！
- 京都の努力だけでは解決できない課題を国家戦略に！！
 - ・ 法改正， 税制改正等， 制度上の問題を伴う課題
 - ・ 一自治体には厳しい財政上の負担 等



日本の未来のために、国の課題として提起し、国の施策として実現を図っていく。



国家戦略として京都を創生する

景
観

文
化

観
光

成果



都市格の向上

①建物の**高さ規制強化** (45m→31m,31m→15mなど)

②建築物の**デザイン規制**

③**眺望景観・借景の保全**

④**屋外広告物の規制強化**

・屋上看板・点滅式看板の全面禁止

・色・大きさの規制【けばけばしい看板, 大きすぎる看板の規制】

約28,300件を
撤去・是正

⑤**歴史的町並みの保全・再生**

・歴史的な町並みや建造物の指定

・伝統的な建造物の外観の修理・修景に対する助成



2007年



2015年





4つの方針

- ・次の世代の担い手育成
- ・京都の魅力発信
- ・今に息づく文化を守り，活かし，創造する
- ・国内外との連携

8つの視点

育てる

日本の文化芸術の継承と創造を担う若者等の育成

果たす

伝統的な文化芸術等継承の役割を果たす

知る

市民による京都の暮らしの文化の再発見

守る

歴史的文化遺産が蓄積された都市・京都の継承・発展

活かす

京都の豊富な文化芸術資産の活用と創造

広める

日本の文化芸術を，様々な機会をとらえて発信

集う

文化芸術を「知る・体験する・学ぶ・創る」など様々な関わり方で京都に集う

つなぐ

文化を中心とした幅広い交流により歴史を受け継ぎ，未来へつなぐ，全国・世界をつなぐ

2020年に向けて戦略的な取組を展開



**文化庁
全面的移転決定**

国の文化プログラム
京都文化カプロジェクト
キックオフ



先行移転

アジア初

京都文化
芸術
プログラム
2020
の策定

琳派四〇〇年記念祭

京都市交響楽団創立六〇周年記念事業

ロームシアター京都開館

伊藤若冲生誕三〇〇年記念事業

スポーツ・文化・ワールド・フォーラム

オリ・パラに向けた京都文化カプログラムの推進

京都市立芸術大学移転構想推進

地方文化創生本部（仮称）発足

大政奉還一五〇周年記念プロジェクト

ラグビーワールドカップ2019抽選会京都開催
（初のイギリス・アイルランド以外での開催）

東アジア文化都市

京都市美術館再整備

国際博物館会議（ICOM）

京都芸術センター20周年記念事業

東京オリ・パラ

関西ワールドマスターズゲームズ

世界的な
文化芸術
都市京都
の創生

「大学のまち・学生のまち」

38の大学で15万人（人口の1割に相当。平成14年は14万人）の学生が学ぶ。
世界中から7,700人（平成14年は3,500人）の留学生が集結。

50大学による「大学コンソーシアム」を京都市等が設置

- ・約500の単位互換制度を運営
- ・約50の大学が提供する多彩な科目を学ぶことが可能



- ・理系の学生が、禅、華道、茶道、古典など 千年の歴史から学ぶ
- ・文系の学生が最先端の科学も学ぶ
- ・京都のあらゆる文化、生き方も含めて奥深く学ぶ

「留学生スタディ京都ネットワーク」の設立

平成27年5月29日にオール京都体制で設立

- 府内の大学・短期大学，日本語学校，専修学校，経済団体，京都市，京都府など，合計87団体で構成。
大学・短期大学からは39校が参加。



留学生数
(平成14年) 3,500人

(現状) 7,700人

目標 15,000人!
(平成32年度)

「見」「視」「診」「看」「観」 – 人生観, 世界観

- 明治4年 京都博覧会開催
- 明治28年 平安遷都1,100年事業(平安神宮の建立)
第4回内国勸業博覧会開催
- 明治37年 岡崎公園開設
- 昭和2年 京都駅に「観光案内所」を設置
- 昭和5年 京都市に「観光課」を設置

日本初の博覧会

地方自治体では初

東山, 北山, 鴨川周辺を風致地区指定

- 昭和13年 「旅館サービス読本」発行(京都市観光課)

京都市市民憲章

わたくしたち京都市民は、
美しいまちをきずきましよう。
清潔な環境をつくりましよう。
良い風習をそだてましよう。
文化財の愛護につとめましよう。
旅行者をあたたくむかえましよう。

制定60周年！

昭和31年市民の守るべき規範として制定

「見」「視」「診」「看」「観」 — 人生観, 世界観



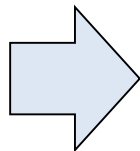
昭和8年（1933年）に、無線電信の発明によりノーベル物理学賞を受けたマルコーニ侯爵が京都を訪れた際に、
「京都へ来て初めて真の日本を見た。」という意味のことを言ったと記述

↓ 約80年後

「京都を知らずに帰国していたら日本を誤解するところだった。」
(国公賓の発言)

「観光」 京都市の観光振興計画

平成22年3月策定
未来・京都観光振興計画2010+5



平成26年10月策定
京都観光振興計画2020

7つのプロジェクト116事業すべてに着手

- ①「暮らすように旅する」
- ②「歩いてこそ京都」
- ③「市民京都再発見」
- ④「心で“みる”京都」
- ⑤「観光客の不満をゼロに」
- ⑥「新たな京都ファン獲得」
- ⑦「京都の魅力うまく伝える」

これらの成果を踏まえ次期計画へ

＜目 標＞
「質」の向上
世界が共感する観光都市
「観光スタイルの質」を高めます
「観光都市としての質」を高めます

成果

＜目 標＞
訪れる人にも住む人にも
高い満足届ける，魅力
あふれるまちの実現

充実

＜目 標＞
「量」の確保

達成

＜目 標＞
「量」の確保

4
本
柱

観光都市像の実現に向け，
4つの柱を基に取組を推進
(25施策・191事業)

人づくり，まちづくり
～おもてなし・やすらぎ・しつらい～

魅力の向上，誘致手法
～きらめき・いざない～

魅力の発信，コミュニケーション
～ひびき・ひろがり～

MICE戦略
～つどい～

「京都市MICE戦略」策定

更なる
飛躍

「京都市MICE戦略2020」策定

①人づくり・まちづくり～おもてなし・やすらぎ・しつらい～

人づくり

大学と連携したリーダーの養成（例：京都大学等）

京都市ビクターズホスト（京都市認定通訳ガイド）



555名が応募
⇒第1期生
56人を認定

フォーリンフレンドリータクシー



外国語研修を受けた運転手
クレジットカード決済可能
専用乗り場を設置

京都観光おもてなしコンシェルジュ

市民の京都再発見事業

まちづくり

無料LANスポットの運用



バス停・地下鉄駅等で
1839箇所・31駅設置

⇒関西広域連合の共通アプリを使えば
関西の無料Wi-Fi 約10,000箇所へ接続可能

「歩くまち京都」の推進

乗換検索システム
「歩くまち京都アプリ」
「バス・鉄道の達人」の運用



24時間多言語コールセンター

・旅館・みやげもの店(免税店)に

5ヶ国語

宿泊施設拡充・誘致方針の策定

民泊通報・相談窓口の設置

新景観政策の推進

②魅力の向上・誘致手法～きらめき・いざない～

3.6倍→1.4倍

3つの集中の是正 季節(繁閑の差), 場所(特定の場所の集中), 時間(朝観光・夜観光)

京都をつなぐ無形文化遺産制度

京都市清酒の普及に関する条例

東山花灯路, 嵐山花灯路

京の七夕

- 京の食文化
- 京・花街の文化
- 京の地蔵盆
- 京のきもの文化

京都きものパスポート



京都マラソン



朝観光の推進



京都レストラン ウィンタースペシャル



京都一周トレイル

京の夏の旅・冬の旅



③ 魅力の発信・コミュニケーション～ひびき・ひろがり～

海外情報発信拠点

開設年	地域(国)
2006年	上海(中国), ソウル(韓国), シドニー(豪州)
2007年	ニューヨーク(アメリカ), 台北(台湾)
2009年	パリ(フランス),
2012年	ロンドン(イギリス), フランクフルト(ドイツ)
2014年	香港(中国), ドバイ(UAE)

京都市ポータルアプリ “Hello KYOTO”



日本ラグジュアリートラベルアライアンス



ムスリム観光客にやさしい受入環境の構築

Kyoto Official Travel Guide (13カ国語対応)

京都観光Navi



京都市メディア支援センター

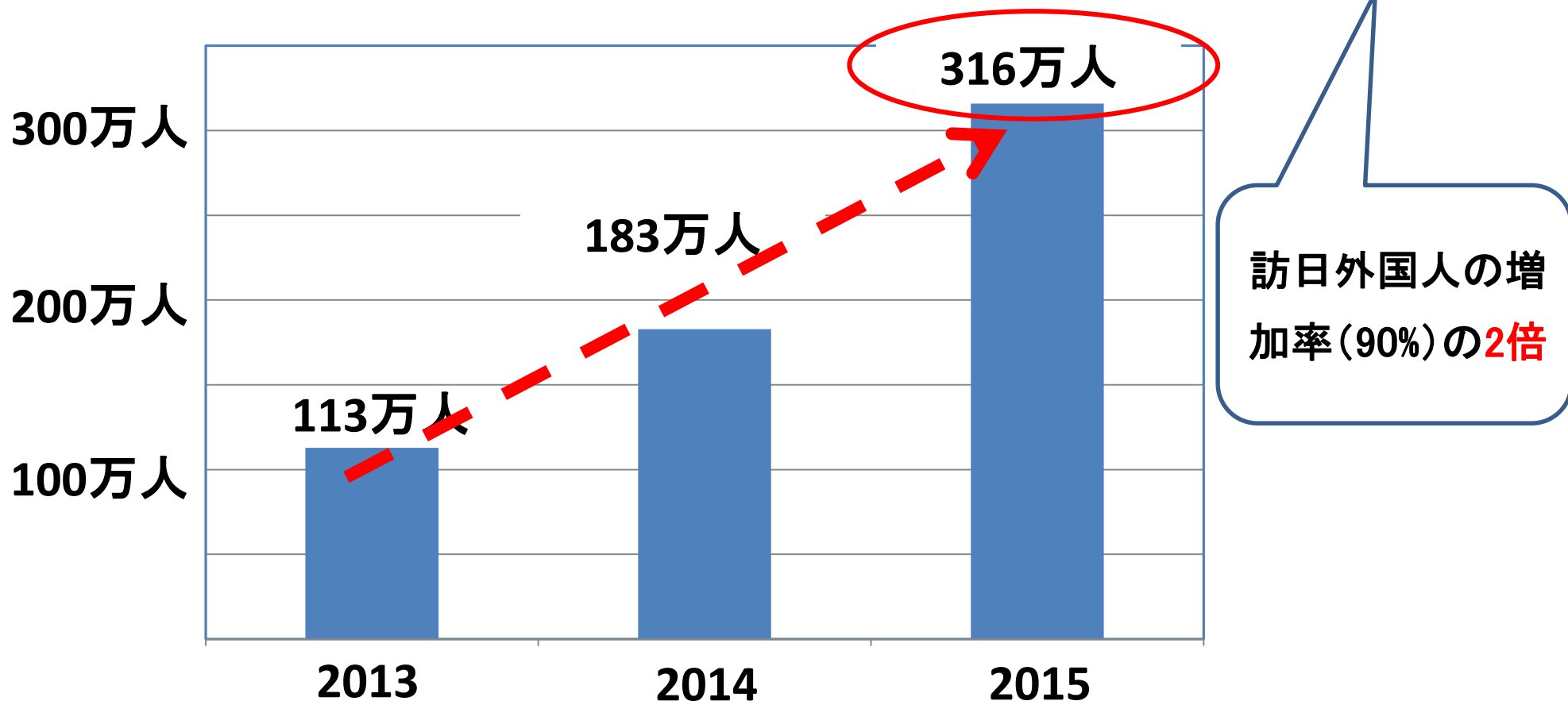
I L T Mへの出展

地域活性化等に関する連携協定



急増する外国人宿泊客

市内外国人宿泊客数～2015年は2013年の**2.8倍**に～
(増加率180%)



宿泊施設拡充・誘致方針

世界があこがれる観光都市の実現、市民の皆様にとっても「住んでいてよかった」と実感でき、市民の豊かさにつながるまちの実現を目指し、本方針を策定

本市の宿泊政策における基本的な考え方

宿泊の質を高め、観光の質を高めることが、量の確保につながる
→上質な宿泊施設をはじめ、多様な観光客のニーズに対応する、様々なタイプやグレードの宿泊施設の拡充・誘致により、全体的な質を高め、裾野を広げる。
→このことは、市内の中小企業の発展、雇用の促進、伝統産業の発展など、市民の豊かさにつながっていく。

宿泊施設の拡充・誘致の5つの考え方

地域や市民生活と調和を図る

多様で魅力ある宿泊施設の拡充

市民と観光客の安心・安全の確保

地域の活性化

京都経済の発展を牽引

今後の見通し

国：訪日外国人旅行者数

平成32年(2020年)4,000万人、平成42年(2030年)6,000万人

京都市：外国人宿泊客数

平成32年(2020年)440(～630)万人

京都市：宿泊施設数

開業予定の4,000室に加えて約6,000室分の新設必要

宿泊施設の拡充・誘致に対する取組

①ホテル・旅館等誘致総合窓口

旅館・ホテル等の拡充等、市の高い施設の開業支援や市域における誘致促進、旅館の事業承継等の相談窓口

②市内全域での宿泊施設の拡充

◆市内各地へのアクセスに便利な地域への誘致促進(鉄道駅周辺)、都市計画による誘導方策や規制緩和の検討、「Kyoto New Hotels」のweb情報発信

◆特色ある多様な地域への誘致促進

③上質な宿泊施設の誘致

◆宿泊施設の立地が制限されている地域(住居専用地域、工業地域、市街化調整区域)においても、地域や市民生活との調和を前提としてうえで、地域の歴史や文化、自然環境・景観との調和が図られるとともに、安定した雇用や、伝統産業・伝統文化の振興に資するなど、本市が定める要件を満たした上質な宿泊施設(ラグジュアリータイプ、MICEタイプ、オーベルジュタイプ)について、特例的に開業を認めることを検討

④旅館の利用促進

◆外国人宿泊客の受入支援◆海外に向けた新たな魅力発信◆直前予約への対応支援

⑤表彰制度の創設 ◆質の高い宿泊施設や宿泊サービスの取組について、

複数の部門を設定して、毎年表彰者を認証・表彰

⑥担い手育成支援 ◆観光事業者と観光分野への就職希望者の交流・マッチング

の支援、担い手育成のため地域の大学や専門学校等との幅広い連携を深める

⑦周辺自治体との連携 ◆本市の周辺自治体(宇治市、亀岡市、大津市等)の宿泊施設と連携を強化し、広域で観光客を受け入れ利便性を向上

「民泊」に係る取組と本市の考え方について

①「民泊」に係る当面の取組とその進め方

- 旅館業法等の関連法令に違反しているものについては、厳正に対応している
- 民泊に係る国の新たな法制度の詳細が判明するまでは、次の取組を進める

ア「民泊通報・相談窓口」の設置

イ 違法な宿泊施設の一層の適正化

- ◆警察など関係機関とも連携のうえ、全庁を挙げて、一層の適正化を図る
- ◆仲介業者に対し掲載施設の所在地情報の提供や無許可施設の掲載削除などの協力要請を引き続き行う

ウ 宿泊サービスの提供に係る本市のルール明確化

- ◆周辺住民への事前周知や事業者の連絡先の開示、宿泊客の迷惑行為の防止、調査に対する協力を促す文書を施設へ貼付することなどを本市のルールとして明確に示し、事業者を取組を求める

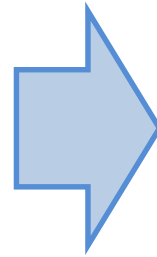
エ 地域住民との調和、ふれあい・交流の促進

- ◆外国人宿泊客と周辺住民が必要に応じて直接、意志の疎通が図れるよう、多言語音声アプリの周知を進める
- ◆地域団体の取組への参加や宿泊施設の運営等に関する協定締結などを助言する

②国において検討が進められている「民泊」新法に対する本市の考え方

- 国の「民泊」新法の制定に当たっては、地域の実状に応じた運用が可能な法制度とするよう、国に要望を行っている。今後の国の法整備の方向性を注視し、今後も必要な要望を行いつつ、新法の詳細が判明した後、具体的取組を検討する
- 宿泊客と周辺住民の安心・安全の確保及び周辺住民の生活環境との調和が図られたうえで、「京都の暮らし」の体験やホームステイによる市民との交流など、付加価値を持った京都らしい良質な民泊を推進する。

公共交通の利便性向上
歩行空間の改善



「歩いて楽しいまち」

マイカーで京都に来る人の割合

42%

1994年



15%

2013年



6.3%

2015年

産学公連携による新産業・新事業の創出

産学公の知恵を結集し、イノベーションを創出
「知恵産業」「伝統産業」を振興し、更なる成長を目指す

～新たに創設した施設、施策等(例)～

● 2010年11月(京都市産業技術研究所内)「知恵産業融合センター」創設

● 2011年7月 京都産学公共同研究拠点「知恵の輪」開所

● 2011年7月(京大病院内)「医工薬産学公連携支援オフィス」開設

● 2012年7月 「京都産業エコ・エネルギー推進機構」設立

● 2013年11月 京都市成長産業創造センター 開所

● 2015年 4月(京大病院内)「京都市ライフイノベーション創出支援センター」開設

● 2015年 5月(京大内)「京都市ライフイノベーション創出支援センター支所」開設

● ※「医工薬産学公連携支援オフィス」の機能を拡充

● 2015年7月(京都高度技術研究所内)「京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)」開設



学
産
公

京都から文化の力で全国の地方創生に貢献

文化庁の全面的な移転の決定を受け、オール京都で全国とつながり、文化の力で日本を元気にし、世界の平和に貢献する

文化庁の方針

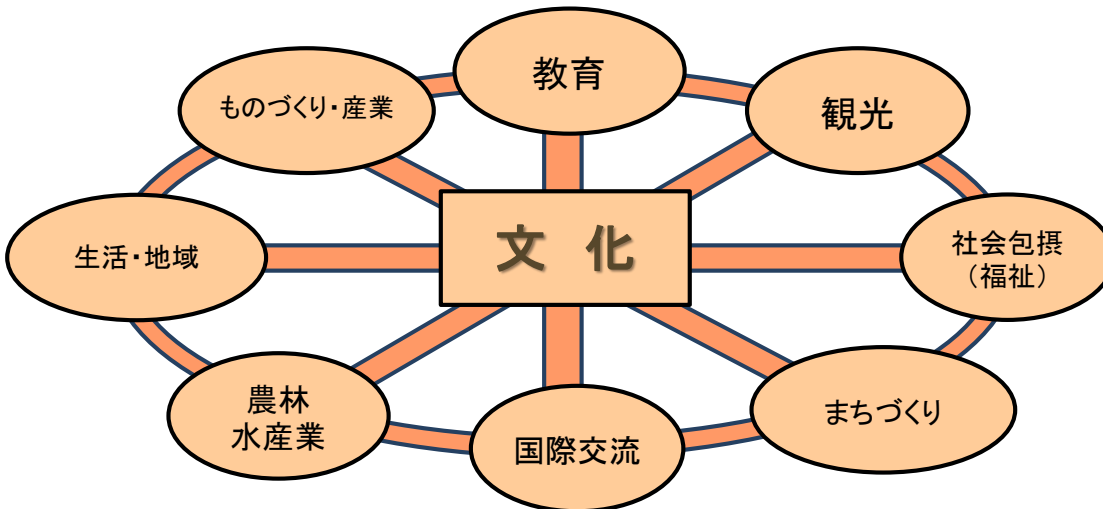
- 新たな文化行政への転換 = 文化庁の機能強化
- 来年4月京都に「地域文化創生本部（仮称）」設置 = 一部先行移転
- 京都のまち全体が「新・文化庁」のサテライトに

京都の特性

- 産業
伝統産業から先端産業までのものづくり都市
- 観光
歴史、宗教、有形・無形の文化財
- 衣食住
日々の暮らしに息づく生活文化、それを支える地域コミュニティ
- 景観
自然との共生
- 大学
大学コンソーシアム京都 京都芸術教育コンソーシアム
- 国際交流
世界歴史都市連盟などの絆を活かした国内外都市とのつながり
- 社会包摂
- 福祉

文化の発展を支えてきたのは、全国の地場産業・伝統産業

「文化」と「暮らし」、「産業」、「観光」、「教育」、「福祉」、「まちづくり」の融合



活用

世界に、日本があってよかった！

そうだ 日本、行こう！